

2013年度 建設マネジメント委員会 研究成果発表会及び表彰式

報告書

運営小委員会

1. 目的

土木学会 建設マネジメント委員会（委員長：小澤 一雅）の研究成果の普及に資することを目的とし、2012年度の特別小委員会及び研究小委員会の活動から、次表に示すテーマに関して発表会を開催した。

2. 概要

研究成果発表会の開催日時と発表プログラムは下表のとおりである。

日 時：平成 25 年 8 月 1 日（木）13：00～17：40

場 所：（社）土木学会 講堂

表 建設マネジメント委員会 研究成果発表会（2013年度）発表プログラム

時間	発表テーマ	発表担当研究小委員会
13：00～13：10	開会の挨拶	建設マネジメント委員会：小澤一雅 委員長
■表彰式		
13：10～14：00	表彰式	
14：00～14：15	休憩	
■研究小委員会の部		
14：15～14：55	インフラ関連事業への適切な PFI/PPP 導入に向けて－制度等のレビュー・提言、道路修繕維持管理 PPP、官民ベストパートナーシップについて－	インフラ PFI・PPP 研究小委員会 宮本和明（東京都市大学） 大島邦彦（熊谷組） 渡会英明（建設技術研究所）
14：55～15：15	公共事業執行システム改革に向けての課題と地方公共団体の技術力実態調査について	公共事業執行システム研究小委員会 木下誠也（愛媛大学） 野口好夫（名古屋工業大学）
15：15～15：45	「地域マネジメント協議会」設立と協議会を活用した地方都市再生事業化構想検討に関する実証的な努力と成果	地域マネジメント研究小委員会 春名攻（立命館大学） 山田幸一郎（立命館大学客員研究員）
15：45～16：00	休憩	
16：00～16：20	環境修復事業における新しいマネジメントによるビジネスモデルの研究	環境修復事業マネジメント研究小委員会 下池季樹（国際環境リユージョンズ）
16：20～16：40	地域貢献としての地場企業の災害対応についての調査－北部九州豪雨災害の事例－（中間報告）	地方における公共工事の入札契約方式に関する研究小委員会 牧角龍憲（九州共立大学総合研究所）
16：40～17：10	「失敗の本質」から学ぶ強い組織づくり	新しいビジネスモデル研究小委員会 中山等（鹿島建設）
17：10～17：30	北海道における市町村のインフラマネジメントに向けた技術支援の取り組みについて	北海道戦略的建設マネジメント研究小委員会 本間省爾（ドーコン）
17：30～17：40	閉会の挨拶	運営小委員会：堀田昌英 小委員長

3. 参加状況

成果発表会の参加状況としては、98名が参加し、昨年とほぼ同様の人数であった。

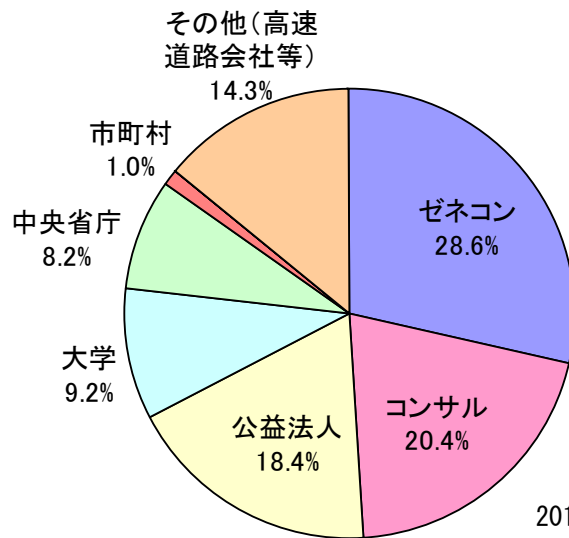
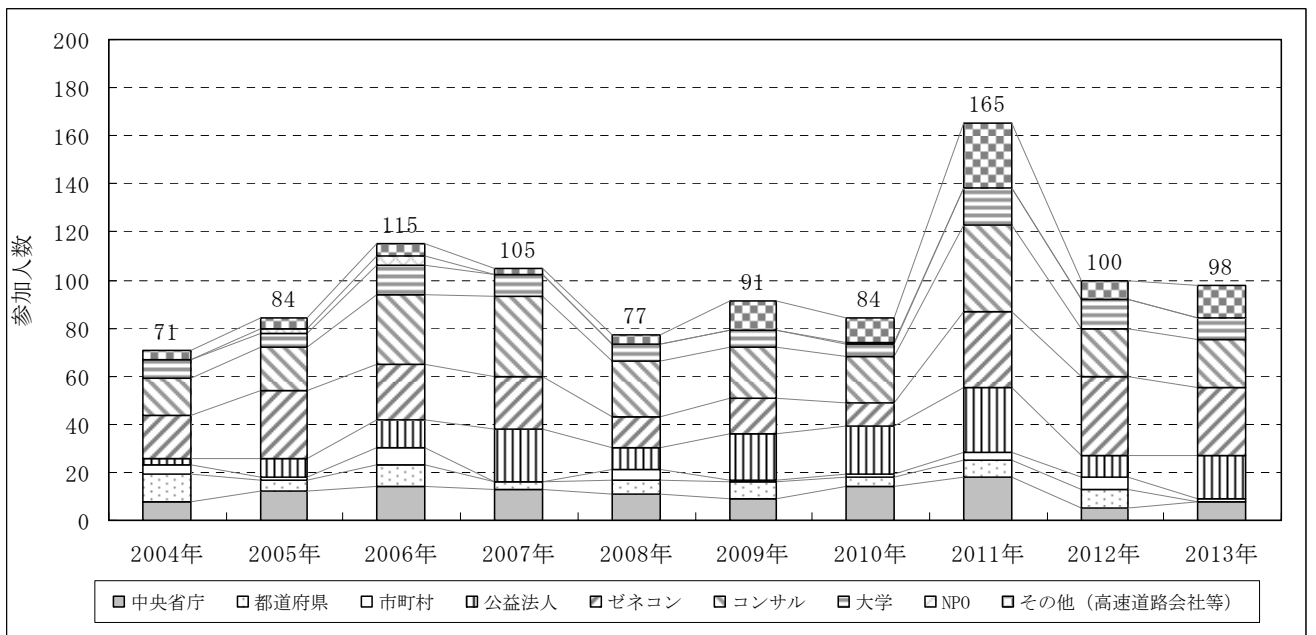
参加者の内訳としては、ゼネコンが28名、コンサルタントが20名と多く、次いで公益団体が18名となっており、民間企業からの関心が高かったものと考えられる。



—発表会場の様子—

<参加状況>

区分	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年
中央省庁	8	12	14	13	11	9	14	18	5	8
都道府県	11	5	9	3	6	7	4	7	8	0
市町村	4	1	7	0	4	1	1	3	5	1
公益法人	3	8	12	22	9	19	20	27	9	18
ゼネコン	18	28	23	22	13	15	10	32	33	28
コンサル	15	18	29	33	23	21	19	36	20	20
大学	8	6	12	9	7	7	5	15	12	9
NPO	0	2	4	0	0	0	1	0	0	0
その他（高速道路会社等）	4	4	5	3	4	12	10	27	8	14
合計	71	84	115	105	77	91	84	165	100	98



2013年参加者属性 (N=98)

*) 参加名簿より作成

4. 発表会に向けた取り組み等について

(1) 発表会に向けた取り組み

- ・ 本年度の表彰式では、表彰小委員会において選定された「論文表彰」1件、「グッド・プラクティス賞」1件、「優秀講演賞」5件を表彰した。
- ・ 本年度の成果発表会では、研究小委員会の成果発表として7つの発表を行った。
- ・ 過年度と同様に、本年度も会場参加者へ成果発表会に対するアンケート調査を実施した。(詳細は後述する《研究成果発表会 アンケート調査結果》に掲載)

(2) 発表会を終えて

<参加状況>

- ・ 「3. 参加状況」に示したとおり、参加者は98名で、昨年同様、概ね例年通りの参加者数であった。

<参加者の属性>

- ・ 参加者の年齢構成を見ると、40代～50代が約半数を占めているのに対し、20代は0%、30代は約27%と少ない。建設マネジメント委員会の研究活動を活性化するためにも、若手技術者の参画に向けたPRも重要と考える。

<参加者の印象>

- ・ 興味ある研究分野としては、入札・契約制度等の『調達』に関心が集まっており、今後重点課題として認識すべきものとする。
- ・ アンケート調査結果によれば、『大変参考になった』又は『参考になった』との回答が、約7割を占めており、概ね参加者には好評であったと考えられる。
- ・ 発表時間の長さについては、『ちょうどよかった』と回答された方が約81%と多く、妥当な発表時間であったと考えられる。

(3) 今後の方向性

- ・ 研究発表会を知ったツールとしては、建マネ委員会のホームページ、案内状が多かった。参加者を増やすためには、「建マネ委員会ホームページを閲覧してもらうための工夫(リンク設定等)」など、更なる工夫が必要と考える。
- ・ 発表内容に対する意見・要望としては、『一般論的な内容に終始せず、具体的な事例を極力引用してほしい』という主旨の意見が見られる。来年度に向けて、各委員会へフィードバックし、本調査結果を有効活用していく必要がある。

5. 表彰受賞者一覧

(1) 論文賞

論文名	執筆者	掲載論文集
公共事業における建設コンサルタント業務の調達方式に関する国際比較研究	木下 誠也 [愛媛大学]	2012 年 F4 特集号



(2) グッド・プラクティス賞

取り組みの名称	取り組み実施者	発表行事
三鷹市民センター周辺地区防災公園街区整備事業におけるUR都市機構・三鷹市のプロジェクトマネジメント	三鷹市民センター周辺地区防災公園街区整備事業におけるUR都市機構・三鷹市のプロジェクトマネジメント取り組みチーム	2012 年度公共調達シンポジウム



(3) 優秀講演賞

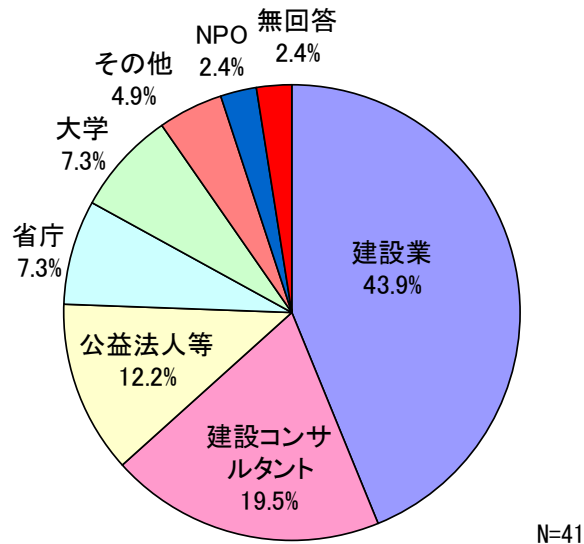
発表名	発表者	発表行事
URの三鷹市民センター周辺地区防災公園街区整備事業におけるプロジェクトマネジメント	久野 暢彦 [都市再生機構東日本都市再生本部]	2012 年度公共調達シンポジウム
国土交通省直轄工事における設計施工一括発注方式の現状と課題	天満 知生 [(株)大林組]	2012 年度研究発表・討論会
海上工事技術者の資格と教育について	島田 伊浩 [(財)港湾空港建設技術サービスセンター]	2012 年度研究発表・討論会
自然由来重金属を含む掘削ずりの管理システム	伊藤 達也 [(株)熊谷組]	2012 年度研究発表・討論会
災害初期の啓開における地域間連携の有効性の検討	草柳 満 [東京都市大学 大学院]	2012 年度研究発表・討論会



6. 研究成果発表会アンケート調査結果

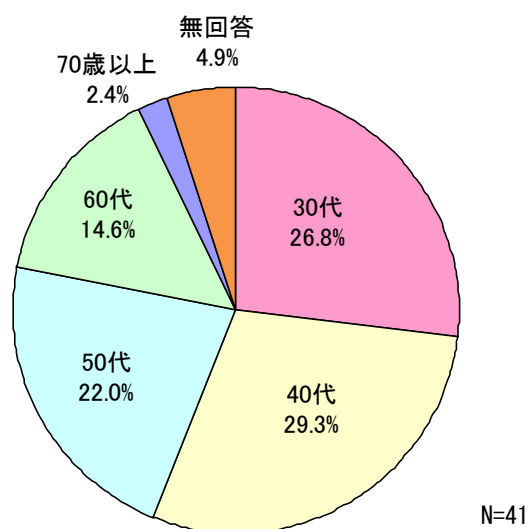
(1) 回答者の所属構成

- アンケート回答者の属性は、「建設業」が約 44%と最も多く、次いで「建設コンサルタント」が約 20%、「公益法人等」が約 12%となっている。



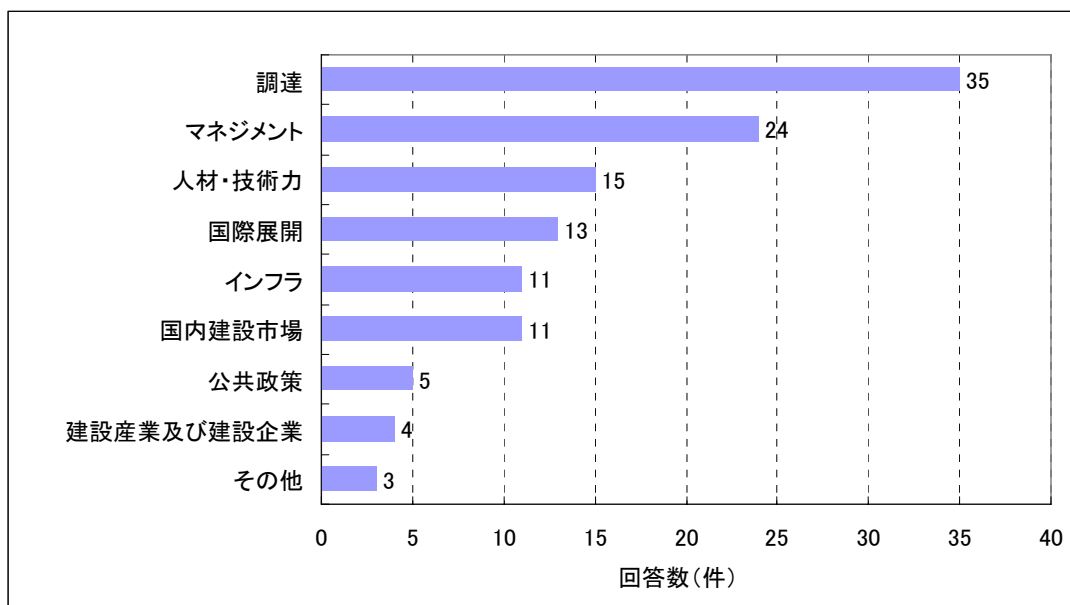
(2) 回答者の年齢構成

- アンケート回答者の年齢は、「40代」が約 29%と最も多く、次いで「30代」が約 27%、「50代」が約 22%となっている。



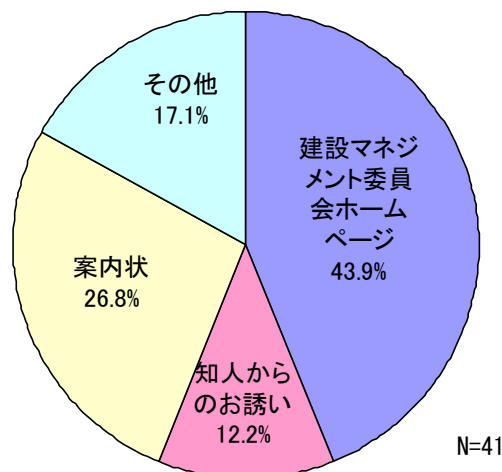
(3) 興味ある研究分野

- 興味ある研究分野としては、「調達」が最も多く 35 件、次いで「マネジメント」が 24 件、「人材・技術力」が 15 件となっている。



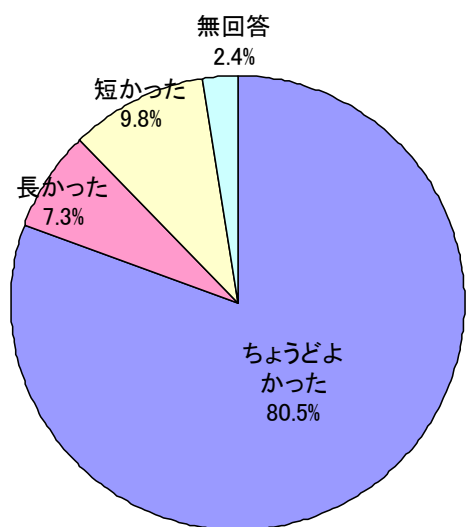
(4) 開催を知ったツール

- 発表会を知ったツールとしては、「建設マネジメント委員会ホームページ」が約 44%と最も多く、次いで「案内状」が約 27%、「知人からのお誘い」が 12%となっている。
- 「その他」の内訳を見ると、「会社からの連絡・メール」も 2 件あった。



(5) 発表時間の長さ

- 発表時間の長さは、「ちょうどよかった」が約 81%、「長かった」が約 7%となっている。



N=41

(6) 参考になった発表

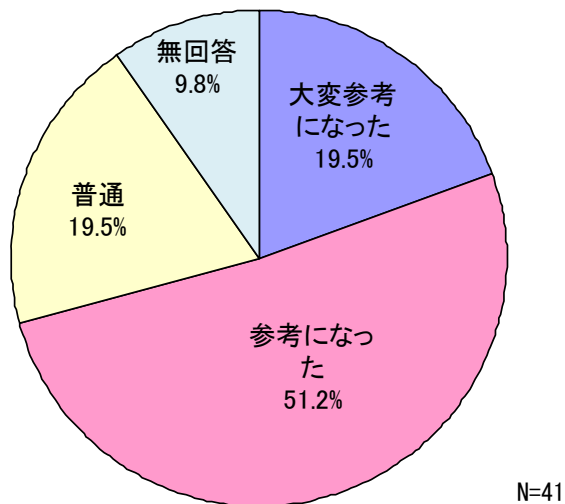
- 参考になった発表としては、「インフラ関連事業への適切な PFI/PPP 導入に向けて」、「公共事業執行システム改革」、「失敗の本質から学ぶ強い組織づくり」が上位 3 位を占めていた。

<上位 3 位>

- | | |
|-------------------------------|------------|
| ・インフラ関連事業への適切な PFI/PPP 導入に向けて | 23 件 (25%) |
| ・公共事業執行システム改革 | 22 件 (23%) |
| ・失敗の本質から学ぶ強い組織づくり | 18 件 (19%) |
| | 94 件 (合計) |

(7) 参加した目的の達成度

- 参加した目的を達成したかどうかについては、「大変参考になった」、「参考になった」が合計で約7割を占めていた。



(8) その他意見

- 「失敗の本質から学ぶ強い組織づくり」について、新しいビジネスモデル研究小委員会の発表内容との関連性、問題意識・事例などを十分に説明してほしい。
- 海外の動向調査やケーススタディ事例の発表（成功したもの、失敗したもの）に期待したい。
- 初めの参加で、非常に興味深く勉強になった。今後も機会を見つけて参加したい。
- 表彰された案件の資料（論文、発表資料等）があればよい。（目を通していない参加者も居ると思われるため）

以上